

広島市感染症週報

広島市感染症対策協議会・広島市感染症情報センター

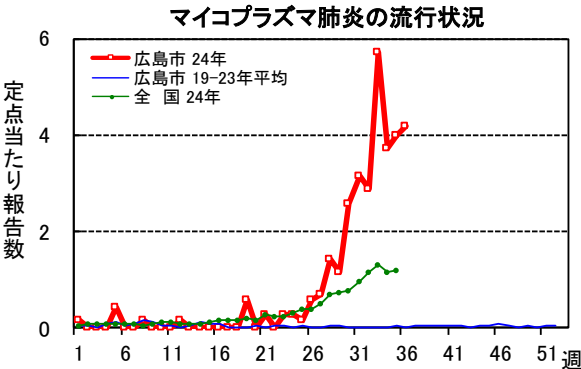
コメント

1 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19)
定点当たり3.00人の報告があり、前週と比べて減少しました。
引き続き、基本的な感染予防対策に取り組みましょう。

2 マイコプラズマ肺炎
定点当たり4.17人の報告があり、多い状況が続いています。
マイコプラズマ肺炎は、長引く咳が特徴で、感染経路は飛沫感染と接触感染です。手洗いの励行、咳エチケットなど、感染予防対策を心がけましょう。

3 手足口病
定点当たり3.27人の報告があり、前週と比べて減少しましたが、多い状況が続いています。手洗いの励行、オムツの適切な処理、タオルの共用を避けるなど、感染予防対策を心がけましょう。

4 百日咳
4件の報告があり、今年の累計は10件となりました。
感染経路は、飛沫感染と接触感染です。7～10日程度の潜伏期間を経て、かぜ様症状で始まり、次第に咳の回数が増えて程度も激しくなります。短い咳が連続的に起こり、続いて、息を吸う時に笛の音のようなヒューという音が出る発作を繰り返す症状がみられます。肺炎や脳症などを合併することもあり、1歳以下の乳児、特に生後6か月未満の乳児は重症化するリスクが高く、注意が必要です。
予防にはワクチン接種が有効です。定期接種対象者は早めに接種を受けましょう。



定点把握感染症報告状況(週報対象)

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均過去5年間(注)	発生記号	定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均過去5年間(注)	発生記号
インフル	インフルエンザ	6	0.17	0.43		小児科	ヘルパンギーナ	4	0.18	0.97	
	新型コロナ(COVID-19)	105	3.00				流行性耳下腺炎	-	-	0.01	
小児科	RSウイルス感染症	11	0.50	1.36		眼科	急性出血性結膜炎	-	-	-	
	咽頭結膜熱	2	0.09	0.20			流行性角結膜炎	8	1.00	0.35	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	35	1.59	0.92		基幹	細菌性髄膜炎	-	-	-	
	感染性胃腸炎	69	3.14	2.58			無菌性髄膜炎	-	-	-	
	水痘	1	0.05	0.13			マイコプラズマ肺炎	25	4.17	-	
	手足口病	72	3.27	1.49			クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-	
	伝染性紅斑	-	-	0.06			感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	
	突発性発しん	5	0.23	0.28							

急増減 ↑ ↓ 前週と比較しておおむね1:2以上の増減

増減 ↗ ↘ 前週と比較しておおむね1:1.5～2の増減

微増減 ↖ ↙ 前週と比較しておおむね1:1.1～1.5の増減

横ばい ⇨ ほとんど増減なし

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

インフルエンザ/COVID-19定点数(小児科定点を含む)	35
小児科定点数	22
眼科定点数	8
基幹定点数	6

(注) 過去5年間の同時期平均(定点当たり)

全数把握感染症報告状況

類型	疾患名	報告数	累計	備考
2	結核	4	79	70歳代・1人、80歳代・2人、90歳代・1人
5	急性弛緩性麻痺	1	1	10歳代
5	急性脳炎	1	7	10歳未満
5	梅毒	2	113	30歳代・2人
5	百日咳	4	10	10歳未満・2人、10歳代・1人、40歳代・1人

■ 定点把握感染症報告状況(週報対象)の推移

			インフルエンザ (C O V I D - 1 9) 新型コロナ 感染症	R S ウイルス 感染症	咽頭結膜熱	A 群溶血性レンサ 球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ 肺炎	クラミジア肺炎	感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	
報告数	広島市	第32週	3	245	27	5	36	46	2	254	-	6	13	-	1	3	-	-	20	-	-
		第33週	-	121	11	1	18	28	1	78	-	3	2	-	-	-	-	40	-	-	
		第34週	7	188	12	5	14	61	1	77	-	8	5	1	-	2	-	26	-	-	
		第35週	9	163	20	4	25	67	-	99	1	4	6	-	-	4	-	28	-	1	
		第36週	6	105	11	2	35	69	1	72	-	5	4	-	-	8	-	25	-	-	
定点 当たり	広島市	第32週	0.09	7.66	1.35	0.25	1.80	2.30	0.10	12.70	-	0.30	0.65	-	0.13	0.38	-	-	2.86	-	-
		第33週	-	4.17	0.65	0.06	1.06	1.65	0.06	4.59	-	0.18	0.12	-	-	-	-	5.71	-	-	
		第34週	0.20	5.37	0.55	0.23	0.64	2.77	0.05	3.50	-	0.36	0.23	0.05	-	0.25	-	3.71	-	-	
		第35週	0.26	4.66	0.91	0.18	1.14	3.05	-	4.50	0.05	0.18	0.27	-	-	0.50	-	4.00	-	0.14	
		第36週	0.17	3.00	0.50	0.09	1.59	3.14	0.05	3.27	-	0.23	0.18	-	-	1.00	-	4.17	-	-	
	全国	第34週	0.29	8.80	0.56	0.29	1.57	2.42	0.13	4.24	0.13	0.28	0.70	0.03	0.02	0.54	0.02	0.03	1.17	-	0.01
		第35週	0.38	7.46	0.65	0.26	1.75	2.63	0.12	5.70	0.16	0.29	0.82	0.04	0.02	0.47	0.03	0.03	1.18	-	0.01

■ 新たに判明した病原体検出状況

(検査: 広島市衛生研究所)

診断名	主症状	年齢	発症年月日	検査材料	検出病原体
その他の呼吸器疾患	発熱(40.5℃) 咽頭痛 鼻出血	15	2024/07/26	鼻汁(拭い液)	新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)
その他の呼吸器疾患	発熱(39.0℃) 肺炎	6	2024/07/25	鼻汁(拭い液)	肺炎マイコプラズマ

* 感染症発生動向調査に基づく病原体定点搬入分のみ掲載

【参考】広島市における梅毒の発生動向について

今年の累計報告数は113件(男性83件、女性30件)と、1999年の感染症法施行以降の調査において、2022年(317件)、2023年(272件)に次いで3番目となっています。また、年代別では、男性は20歳代から50歳代の幅広い年代に多く、女性は20歳代が多くなっています。

梅毒は、主に性的接触により、口や性器などの粘膜や皮膚から感染します。早期の治療で完治しますが、治療をしないまま放置すると、心臓や血管、脳などの臓器に病変が生じ、時には死に至ることもあります。

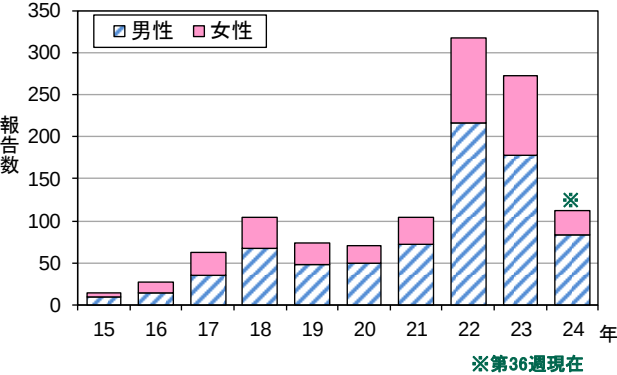
また、妊娠している人が感染すると、死産や早産になったり、生まれてくる子どもの神経や骨などに異常をきたす先天梅毒になることがありますので、感染予防と早期発見・早期治療が大切です。

梅毒の無料・匿名検査

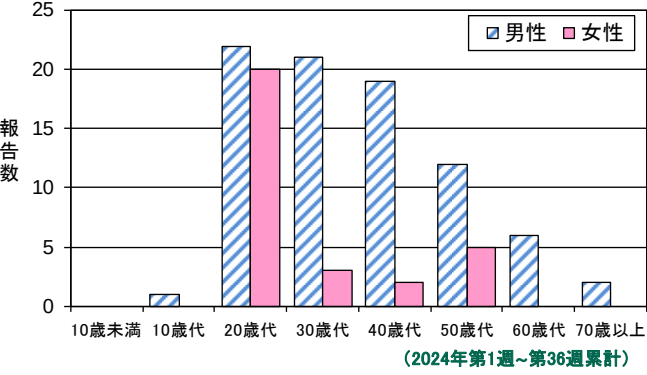
広島市の各区保健センターでは、梅毒の無料・匿名検査を実施しています。
原則としてHIV(エイズ)検査と同時受検となります。
詳しくはホームページをご覧ください。
<https://www.city.hiroshima.lg.jp/soshiki/72/2986.html>



梅毒の年間報告数の推移(広島市)



梅毒の年齢階層別報告数(広島市)



本週報は、速報性を重視していますので、今後調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。なお、感染症情報の詳細についてはホームページをご覧ください。
<https://www.city.hiroshima.lg.jp/site/infectious-disease/>



【問い合わせ先】

広島市感染症情報センター/広島市衛生研究所 〒733-8650 広島市西区商工センター四丁目1番2号
TEL (082) 277-6575 FAX (082) 277-5666 E-Mail ei-seikatsu@city.hiroshima.lg.jp